



2.2

5歳未満の子供の発育障害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。

4.2

2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。

原田 京子
阿部 洋子
西村 貴子
今瀧 梨江
青木 翔

歯学部
小児歯科学講座

歯科用セメントの改良で 小児の歯科治療のイメージを変える

歯科用セメントは、かぶせ物や虫歯治療において重要な役割を担っています。市販のセメントを改良することで、虫歯の進行を停止させ、さらに強度や接着力を改善することで長持ちさせることができれば、小児にとって苦手な治療回数を減らすことができ、また治療時の不安や恐怖の軽減につながります。虫歯治療を必要とする世界中の小児に役立つ歯科用セメントの開発を目指しています。

小児期の口腔機能の変化はめざましく、すべての小児を対象に口腔機能の発達支援が望まれています。口腔機能の発達は心身の発達と強く関連しているため、各々の発達のバランスをとらえることが重要です。歯科診療では保護者の育児のサポート役であることを念頭に、小児の成長発達を見守り、促すことを心がけています。



message

今も虫歯は世界中の人々を悩ませています。治療が受けられる小児はごくわずかです。近い未来、誰もが心身ともに充実した小児期を過ごせる日が来ることを願い、歯科材料の研究と小児歯科医の育成に貢献したいと考えています。